



第48回日本小児呼吸器学会
第26回日本小児呼吸器外科研究会

ランチオンセミナー4

日時

2015年10月24日(土) 12:10~13:00

会場

第1会場(倉敷市芸文館 1F ホール)

〒710-0046岡山県倉敷市中央1-18-1

小児感染症領域における 迅速診断の将来展望

～より良い感染症診療を目指して～

司会

若葉こどもクリニック 院長

山崎 勉 先生

演者

慶應義塾大学医学部感染症学教室 教授

岩田 敏 先生

10月24日(土) 8:20~11:30まで

倉敷市芸文館 1F ロビー にて整理券を配布いたします。

整理券はセミナー開始10分後に無効となります。

共催: 第48回日本小児呼吸器学会
第26回日本小児呼吸器外科研究会
旭化成ファーマ株式会社

小児感染症領域における迅速診断の将来展望 ～より良い感染症診療を目指して～

岩田 敏

慶應義塾大学 医学部 感染症学教室

適切な感染症診療を行うためには、適切な病因診断を行うことが重要である。そのための手段として、従来から行われている培養法がゴールドスタンダードであることは現在も変わっていないが、近年の迅速診断法の進歩は著しく、様々な感染症の分野で迅速診断の技術が開発されている。外来、入院を問わず感染症を診る機会の多い小児領域では、ベッドサイドで病因診断ができる POCT のキットが使用される機会が特に多く、ざっと数えただけでも、インフルエンザウイルス、RS ウイルス、ヒトメタニューモウイルス、アデノウイルス、ロタウイルス、ノロウイルスなどによるウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌、肺炎球菌、肺炎マイコプラズマ、レジオネラなどによる細菌感染症と、多くの感染症において迅速診断キットが使用されている。また昨年話題となったデング熱やマラリアといった蚊媒介感染症においても迅速診断キットが開発されており、国内未承認ではあるが利用することが可能である。私たち臨床医は、これらの迅速診断キットを利用することにより、より適切な治療法を選択することができるばかりでなく、適切な感染防止対策を講ずることにより、感染症診療においてより良い医療を患者さんに対して提供することができることになる。また一方では、遺伝子学的手法を用いた様々な診断方法が開発され、感染症診療に利用されようとしている。リアルタイム PCR 法などの手法を用いることにより、呼吸器感染症や細菌性髄膜炎などの侵襲性感染症において、主要な原因微生物を網羅的に検出することが可能となり、比較的迅速に、しかも原因となる可能性の高い広範囲の病原微生物をスクリーニングにかけることが可能となってきている。また、特定の病原微生物を対象とした遺伝子学的診断法においては、遺伝子の抽出から PCR 法による判定までの過程が全自動化された機器も開発されてきており、今後の臨床への導入が期待されている。さらに、微生物の薬剤耐性に関連する遺伝子を同時にスクリーニングすることができれば、より適切な抗微生物薬の選択につなげることが可能となる。

本セミナーでは、主として小児領域で問題となる感染症を取り上げ、これらの感染症に対する迅速診断の実際と今後の展望について考えてみたい。